

広報

こだま

2017

Vol.29

【栗田病院 広報誌】

創立50周年記念事業

フォーカス くりた人

ケアマネジャー 石川千鶴

広報散歩

外来リハビリテーション



有朋会・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張っており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会
栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com
<http://www.yuhokai-kuritah.com/>

創立50周年記念事業

記念式典・祝賀パーティ

2017年6月、有朋会栗田病院は創立50周年を迎え、2017年10月15日に職員が一堂に会し盛大に記念式典・祝賀パーティが執り行われました。

第1部【式典】	
理事長挨拶	理事長 栗田裕文
会長挨拶	会長 栗田邦子
祝辞	順天堂大学 医学部 医学研究科 教授 鈴木利人先生 医学研究科 教授 新井哲明先生 筑波大学 医学医療系臨床医学域 那珂市市長 海野徹氏 理事長 栗田裕文
有朋会 ビジョンと 中長期経営 計画発表	院長 安部秀三 経営管理統括部長 樋山慶樹 医療管理統括部長 綿引英雄 経営企画統括部長 進藤純平

第2部【祝賀パーティ】	
乾杯	役員・来賓 事務長 栗田準子
アトラクション	●マグロ解体ショー ●グラフィックファシリテーション披露 ●理事長賞・院長賞表彰 ●抽選会
閉会の辞	院長 安部秀三

第1部【式典】の冒頭では、栗田裕文理事長と栗田邦子会長より改めて栗田病院の50年の歴史を振り返るとともに、無事こうして50周年を迎えられたことについて職員への感謝の気持ちが述べられました。



「皆さんと共に創った50年。感謝の気持ちでいっぱい。」と語る栗田裕文理事長

祝辞では、当法人の発展を支えてくださった鈴木利人先生（順天堂大学）や新井哲明先生（筑波大学）、海野徹氏（那珂市長）よりお言葉をいただきました。その後、理事長、院長、統括部長より有朋会のビジョンと進むべき未来に向けて、経営計画の発表がありました。



経営計画発表を行う様子
左から進藤・樋山・綿引統括部長

第2部【祝賀パーティ】では、招待された約300名の職員や職員ご家族様へ料理やイベントが振る舞われました。

鏡開きで栗田病院の51年目の門出を祝い、大抽選会では職員の皆様へ日頃の感謝を込めた豪華賞品がプレゼントされました。



抽選会の様子

しごと総合研究所の山田夏子氏をお招きして、グラフィックファシリテーションも行われました。



毎年恒例となる法人の発展に尽力された職員に贈られる、理事長賞と院長賞の表彰も行われました。今年の受賞者は次の通りです。

理事長賞：高品質、顧客満足度の高いサービスを提供し、開発し提供した職員に贈られる賞

【受賞】認知症疾患医療センター「初診前訪問」「受賞理由」初診日まで待機期間を有効に活用する先進的な取り組みにより、ご本人様・ご家族様から安心と信頼を得る事ができている。



院長賞：日々の業務において、顧客ニーズに合わせた満足度の高いサービスを提供した職員に贈られる賞

【受賞】外来・医事課・地域医療連携課「三部署ミーティング」

【受賞理由】柔軟性を求められる外来での患者様対応において3つの部署が相互に情報を共有し、個別の状況に配慮した対応をしている。

【代表】荻原貴之（地域医療連携課）



最後に、閉会の辞として安部秀三院長より、締めくくりの挨拶をいただきました。



「栗田病院のさらなる発展を目指す」と語る安部秀三院長

創立50周年という節目に多くの職員と関係者にお集まりいただき、素晴らしい式典・祝賀パーティを開催する事ができました。有朋会栗田病院はこの先の未来へ地域の皆さまと共に歩み続けてまいります。



症例研究発表・QCサークル活動大賞発表

2017年11月に行われた症例研究発表・QCサークル活動大賞発表は、医療・介護・福祉サービスの向上や業務改善を目的とした有朋会の毎年恒例行事です。今年も多くのエントリーがありました。症例研究発表では講師として、茨城県立医療大学の糸嶺一郎先生をお招きし、各発表のご講評と優秀賞の選出もお願いしました。



症例研究発表

発表者	題目
江幡拓也	就労支援事業所における就労訓練プログラムの効果
村田めぐみ	マロン病棟への入院と退院調整に関する実態調査～入院・退院においての実態把握並びにその問題点や課題について～
阿部彩月	入浴を拒否する入所者への支援～入浴に対する悪いイメージを減らす～

優秀賞

発表の中からより優秀な作品には優秀賞が贈られます。

今回は、臨床心理課の秋山優里さんが発表した「復職支援プログラムにおける関係構築～互いが抱える恐さと向き合うことを通じて～」が選ばれました。受賞者には、賞状と副賞が贈られました。

QCサークル活動大賞発表

発表者	題目
優勝 山本一貴、小橋昌樹、市村奈津実	病棟職員が抱く嘔下、食事介助の不安軽減
準優勝 進藤雅子、大久保麻椰、高野華加	既存業務の不明確さにおける個別介入の少なさの改善

こうした研究発表やQCサークル活動を通して有朋会職員の知識や技術は常に磨かれていきます。「患者様のためにより良質な精神医療とはなにか」をこれからも追及し続け、より質の高いサービス向上を目指していきたいです。

フォーカス

くりた人



居宅介護支援事業所クリクリ
ケアマネジャー 石川千鶴

当院で働く、現場職員の声をお届けします。

業務内容や部署での役割を教えてください。

私たちケアマネジャー(以下、ケアマネ)は、在宅で生活し介護を必要とされる高齢者やそのご家族様の相談に応じて、適切な介護保険サービス*を受けられるようにケアプランの作成やサービス提供事業所との調整を行っています。ケアプランの作成には、サービスの調整を行う方が住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、抱えている問題や悩みを把握するためのアセスメント能力が必要です。そして、その方々の希望に合ったサービスとそれらを提供する事業所とを繋ぐ事もケアマネの大きな役割です。介護保険制度が始まった時にできた職種で介護保険制度に則った業務が中心となります。私の所属する居宅介護支援事業所クリクリはその母体が栗田病院であるため、精神疾患や認知症の方を受け持つことが多くあります。地域包括支援センターなど外部からの紹介で前述以外のケースを受け持つこともありますが、割合としては3割くらいですね。

個人の業務としては、要支援などの予防に関する請求を行っています。今年4月に産休から明けて子供もまだ小さいので、あまり負担にならないように業務の調整をしております。

どんな時にケアマネとしてのやりがいを感じますか？

ケアマネの仕事は、利用者様本人だけでなく、そのご家族様やサービス提供事業所など、人と人との関わりの中で成り立っています。人と人ですからやはり一筋縄ではいき

ません。ましてや認知症の利用者様との関わりは思うように進まない事がほとんどです。その度に壁にぶつかりながら何度も繰り返し挑戦する事で、その方に本当に合ったサービスを見つけ、繋げていく事がやりがいだと感じています。関わらせていただいた利用者様やそのご家族様から、「石川さんに相談してよかった。」このサービスを受けてみてよかった。」と言ってもらえた時の喜びはひとしおです。やりがいとは別の話かもしれませんが、利用者様とただお話ししている時にもケアマネとしての楽しさを感じています。年齢から人生経験の豊富な方ばかりなので、お持ちの知識や過去の出来事など学ばせていただく事がとても多いです。

ケアマネを目指したキッカケを教えてください。

私は介護士として介護の現場で7年ほど働いていました。その延長として、勉強も兼ねて資格として取得しようと思ったのがケアマネでした。それまで介護の現場しか見ていなかったのですが、介護サービス利用に至るまでの過程やサービス利用時以外の在宅での生活など、利用者様の生活をトータルで見ることのできるケアマネはまさしく自身のスキルアップに繋がったと感じています。そしてケアマネの取得と同時に現在の上司であるケアマネの先輩からの誘いを受けて、新しい分野への挑戦として栗田病院に移ることを決意しました。

仕事をする上で心がけている事はありますか？

やはり一番は利用者様やご家族様との信頼関係の構築が重要だと思います。人と人との関わりなので非常に難しい事ではありますが、まずは傾聴の姿勢を大切にしています。ケアマネとしての自分の思いや考えを主張するだけではなく、利用者様やご家族様の思いに寄り添い、その悩みや困っていることをきちんと聴きます。アセスメントとして情報を集める意味もありますが、それぞれに合った関わり方を模索して、よりよい信頼関係の構築ができるよう意識しています。これは、介護士として現場で働いている頃から変わること

のない私の仕事をする上でのスタンスかもしれません。さらに第一印象を良く感じてもらえるように笑顔を大切にしています。それぞれに合った関わり方という点では、言葉遣いにも配慮しています。地域性はもちろん、その方の育ってきた環境や積んできた経験によって考え方や感じた方は様々です。その見極めは非常に難しいですが、話の切り口や誘い方をなるべく工夫しています。「この人には相談しづらい」と思われてしまつては、その後の関係修復は難しくなってしまうからですね。

他にも常に学ぶ姿勢でいる事を心がけています。ケアマネとして栗田病院で働く事になった時、私にとって病院という組織は未知の世界でした。いろいろな立場や職種、介護だけでなく医療として必要な知識など初めて知る事がたくさんありました。利用者様へのサービスの提供はケアマネだけでは実現できません。現場の介護士以外にも医師や看護師、薬剤師などたくさんの方の職種が助け合つてよりよいサービスの提供を目指す必要があります。*一期一会*これは私の座右の銘でもあるのですが、こうした一つひとつの出会いや学びが私を形成し、成長させてくれています。

今感じている課題や今後の目標を教えてください。

私は介護士を経験してケアマネの資格を取得したことで、医療に関する知識が少なく、看護職を経験されたケアマネさんならではの視点や見立てが羨ましいと感じる時があります。幸い栗田病院では医療と介護どちらも学べる環境があるので、こうした知識をしっかりと身につけて今後の業務に活かされたいと思います。

介護の現場は急激に変化しています。新しいサービスや利用方法がどんどん普及しているので、時代の流れに遅れないようにそういった情報もなるべくキャッチできるように意識していきたいです。

介護士からケアマネという立場になって初めて見えたもの、感じた事がたくさんあります。認知症介護実践者研修も受けたので、これを実践できる場で挑戦していく事も視野に入れて、利用者様やご家族様の思いや求めている事に寄り添いながら日々の業務に励んでいきたいです。

*介護保険サービス：訪問介護や通所介護など、希望に応じて自宅や施設で食事や入浴などの日常生活の援助を受けられるサービス。

広報散歩

『外来リハビリテーション』

今回インタビューを行ったのは、デイケアやデイナイトケアなどの機能を持つ外来リハビリテーションです。「地域での生活のしづらさに目を向け、その人らしく生活できるように支援したい。」と話す、責任者の坂元さんに話を伺いました。

外来リハビリテーションについて教えてください。

外来リハビリテーション(以下、外リハ)は精神疾患を持ちながら地域で生活されている方を対象として、「継続的な医療の提供」「地域生活支援」「就労支援」の3つを軸とした幅広いサービスを提供しています。疾患では統合失調症や気分障害の方が多く、20代から70代と幅広い年齢の方が利用されています。ご自宅以外にも法人内外問わずグループホームなどの施設から通所される方もいます。外リハで提供しているプログラムは先述の3つの軸に沿った形で分類され、①治療継続プログラム、②生活支援プログラム、③就労支援プログラムとなっています。①にはジブマンニアルやグループミーティング、②は料理や外出などレクリエーションを中心としたプログラム、③にはジョトレやKJ会社などがあります。現在の登録者数は200名を超え、1日約70名の利用者様がそれぞれの目的に合わせたプログラムに参加されています。

法人から求められている機能としては、入院生活の後のつなぎ役として地域やご家族様との繋がりを助ける役割であると感じています。退院後、地域での生活に戻った際に生じるギャップを埋めるために、外リハで提供する様々なサービスを利用していただく事で、新たな生活を組み立てる手助けになればと思っています。



責任者 坂元 勇斗

どのようなスタッフが働いていますか？

外リハは多職種からなる部署で、看護師、作業療法士、精神保健福祉士で構成されています。ベテランから若手まで10名が勤務しています。看護師の役割はより医療的な部分に目を向けてもらう事です。精神的な症状はもちろんですが、内科疾患への対応や気付きなど看護師ならではの視点を頼りにしています。作業療法士は、利用者様らしさを評価しどんな支援が必要か考え介入を行っています。個別の関わりだけでなく、時にはグループを利用した支援も行います。精神保健福祉士は制度に関する知識が豊富なので、利用者様の生活をより充実させるためのサポートをしております。

しかし、職種毎の特性だけに頼り過ぎずチームとして支援する事も重要と考えています。利用者様から見ればどの職種も変わりなく「スタッフなので、それぞれの特性を活かしつつも利用者様一人ひとりの生活がよりよくなるためにチーム全体でサポートができるよう心がけています。

現在力を入れている取り組みややりがいを教えてください。

今年度から特に力を入れているのは顧客満足度の追求です。今までもまったく意識していなかったわけではないのですが、より利用者様の想いや希望に添える事ができるような実際に話を伺ったりアンケートを実施したりしました。この取り組みを行う事で、利用者様が外リハに求めている事を再認識できたり、新たな発見もあり、今後の外リハ運営を充実させるための大きな機会となりました。これは同時にスタッフのやりがいにも繋がります。外リハを利用する目的は様々ですが、生活にゆとりが欲しかったり、仕事に就きたかったり、今までの生活より少しでもステップアップしていく事に喜びを感じてもらえた時、利用してもらえてよかったと思える瞬間です。やりがいとは少し逸れてしまいかもしれませんが、今後重要となる取り組みとしては、高齢者の方のリスクアセスメントであると感じています。地域の高齢化に伴い、外リハの利用者様の平均年齢も底上げ

されています。身体機能の低下が目立つ利用者様も出てきており、誤嚥や転倒のリスクも増えてきています。安全な利用を続けてもらうために、大事になる前の気付きをどうもたらすか、スタッフの力量が問われるところです。

今後の外来リハビリテーションの展望は？

外リハを利用していたく上での利点は、まず一つに集団での生活である事が挙げられます。幅広い年代のいろいろな利用者様がいて、困った時に的確に答えてくれるスタッフがいて、精神疾患と向き合いながら生活する上でのよきアドバイザーとなってくれます。人との交流という面でも、プログラムを通してたくさんの方とコミュニケーションを取ることが出来ます。そして二つ目は選択の幅が広い事です。都合に合わせて利用時間の変更できたり、たくさんさんのプログラムが体験できたり、多様な利用方法があり、自分の生活に合わせて自由に組み立てることが出来ます。

そして、これを基盤として個性のあるサービスの展開を心がけていきたいです。利用者様本人がどのような生活を送りたいか、そのために何を考え何を選択すべきか。時には周りからの指導や助言も必要かもしれませんが、なるべく本人の意志を尊重した対応をしていきたいです。部署内のスタッフ間だけでなく、法人全体や他事業所とも連携を取る必要があるのです。しっかりと情報共有できる仕組みも作っていきたくです。

さらに今後は、地域との繋がりを強化していきたいと考えています。法人内では芋煮会や納涼祭など地域の方をお招きしたイベントを開催しています。今はまだ個人的な考えではありませんが、利用者様が地域で安心して生活できるように外リハでもこうしたイベントを企画して、精神疾患を持つ方と地域の方が分け隔てなく付き合っていける場を築いていきたいと思っています。地域に受け入れられる外来リハビリテーションであるよう努めていきたいです。



外来リハビリテーション スタッフ

診療案内

外来担当医一覧表

	診察室	月	火	水	木	金	土
午前	1 診	栗田	疋田	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	安部	高橋	堤	木滝	堀	第3・5週 吉川
	3 診	堤	早坂	木滝	早坂	疋田	高橋
	5 診				翠川	井出	翠川
午後	1 診	栗田	田中	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	安部	高橋	木滝	木滝		
	3 診		佐藤	竹下			第3週 鈴木
	5 診						

- 初めての外来受診・入院を希望される方へ
1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
 2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。
- ※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。
 ※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

■ = 内科

受付時間 8:30～11:30 / 11:31～16:00
 診察時間 9:00～ / 13:30～
 ＊精神科外来は完全予約制になります。
 ＊当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。
 予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

関連施設

地域生活支援事業部

障害福祉サービス事業所 自立訓練(生活訓練) ショートステイ

「くりの実」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505 TEL&FAX.029-295-1834

障害福祉サービス事業所 グループホームくりの木

「第1くりの木」「第2くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7652
 「第3くりの木」 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1 TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681
 「くりあん」 〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2 TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

認知症デイサービス

「クリクリ瓜連」 〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7 TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558
 「クリクリ住吉」 〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6 TEL.029-248-1001 FAX.029-248-0215
 「クリクリ市毛」 〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2 TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263
 「クリクリ金上」 〒311-0022 茨城県ひたちなか市金上1031-1 TEL.029-271-1607 FAX.029-271-1608

小規模多機能型居宅介護施設・認知症グループホーム

小規模多機能ホーム「クリクリ」・認知症グループホーム「クリクリ」
 〒311-0117 茨城県那珂市豊喰140-17 TEL.029-352-0016 FAX.029-298-7750
 認知症グループホーム「クリクリ田彦」
 〒312-0063 茨城県ひたちなか市田彦950-48 TEL.029-275-8701 FAX.029-275-8702

認知症疾患事業部

アクセスマップ

